令和5年度 加古川水系広域農業水利施設総合管理事業

呑吐ダム取水設備フローティングスクリーン他整備工事

特 別 仕 様 書

近畿農政局淀川水系土地改良調査管理事務所

加古川水系広域農業水利施設総合管理所

項 目	内 容	備考																
第1章 総 則	<p>令和5年度加古川水系広域農業水利施設総合管理事業 呑吐ダム取水設備フローティングスクリーン他整備工事の施工に当たっては、農林水産省農村振興局制定「施設機械工事等共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）及び近畿農政局農村振興部制定「近畿農政局施設機械工事共通事項書」（URL：https://www.maff.go.jp/kinki/seibi/sekei/kouji_gyoumu/kouji_gyoumu.html）（以下、「共通事項書」という。）に基づいて実施するものとする。</p> <p>同仕様書に対する特記及び追加事項は、特別仕様書によるものとする。</p>																	
第2章 工事内容	<p>1. 目 的</p> <p>本工事は、直轄管理事業（加古川水系地区）で管理する呑吐ダム取水設備フローティングスクリーンの整備及び山田幹線スクリーンの更新を実施するものである。</p> <p>2. 工事場所</p> <p>兵庫県三木市志染町三津田地内</p> <p>3. 工事概要</p> <p>本工事の概要は次のとおりである。</p> <p>取水設備フローティングスクリーン整備</p> <table border="0" data-bbox="539 981 1198 1317"> <tr> <td>補修塗装</td> <td>1 式</td> </tr> <tr> <td>製作及び取替</td> <td></td> </tr> <tr> <td> メインローラ、サイドローラ、バックローラ</td> <td>各 2 基</td> </tr> <tr> <td> スクリーン</td> <td>1 式</td> </tr> <tr> <td>据付</td> <td>1 式</td> </tr> <tr> <td>山田幹線スクリーン更新</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 撤去・製作・据付</td> <td>1 式</td> </tr> <tr> <td> 土砂撤去</td> <td>10 m³（概算数量）</td> </tr> </table> <p>4. 工事数量表</p> <p>別紙工事数量表のとおりである。</p> <p>5. 施工範囲</p> <p>本工事の施工範囲は、第2章3. 工事概要で示す作業の一切とする。</p> <p>6. 工期</p> <p>本工事は、受注者の円滑な工事施工体制を確保するため、事前に建設資材、建設労働者などの確保が図れるよう余裕期間を設定した工事である。</p> <p>余裕期間内は、主任技術者又は監理技術者を配置することを要しない。また、現場に搬入しない資材等の手配等を行うことができるが、資材の搬入、仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う手配等は受注者の責により行うものとする。</p> <p>工 期：令和6年8月9日から令和7年3月16日まで （余裕期間：契約締結の日から令和6年8月8日まで）</p> <p>※契約締結後において、余裕期間内に受注者の準備が整った場合は、監督員と協議の上、工期に係る契約を変更することにより、工事に着手することができるものとする。</p> <p>なお、低入札価格調査等により、上記の工事の始期以降に契約締結となった</p>	補修塗装	1 式	製作及び取替		メインローラ、サイドローラ、バックローラ	各 2 基	スクリーン	1 式	据付	1 式	山田幹線スクリーン更新		撤去・製作・据付	1 式	土砂撤去	10 m ³ （概算数量）	
補修塗装	1 式																	
製作及び取替																		
メインローラ、サイドローラ、バックローラ	各 2 基																	
スクリーン	1 式																	
据付	1 式																	
山田幹線スクリーン更新																		
撤去・製作・据付	1 式																	
土砂撤去	10 m ³ （概算数量）																	

項 目	内 容	備考														
<p>第3章 施工条件</p> <p>1. 工程制限</p> <p>2. フローティングスクリーン整備</p> <p>3. 山田幹線スクリーン</p> <p>4. 作業船</p> <p>5. 工事期間中の作業日</p>	<p>場合には、余裕期間は適用しない。</p> <p>また、工事実績情報システム（コリンズ）に登録する技術者の従事期間は、契約（変更の場合は、変更契約）工期をもって登録することとし、余裕期間を含まないことに留意すること。</p> <p>山田幹線スクリーンの撤去据付作業に使用する仮設ヤードについては、令和7年2月3日以降に使用できることを想定している。詳細については監督員と協議するものとする。</p> <p>フローティングスクリーンは、呑吐ダム下流部に仮置きしているのもので、その場所で整備及び補修塗装等を行うものとする。</p> <p>フローティングスクリーン据付時の呑吐ダム貯水位は、EL. 135.0mを想定している。</p> <p>山田幹線スクリーン撤去据付時は、大川瀬導水路を通水停止の操作を監督職員が行うため、施工時期・期間について監督員と協議するものとする。</p> <p>スクリーン撤去時に注水工に堆積している土砂の撤去を行うものとする。撤去した土砂はダム下流敷地内に敷きならすものとする。</p> <p>管理所で所有する船舶（定員5名）を貸与することが出来る。なお、操船にあたっては、2級小型船舶操縦士免許以上を所有する者が操縦すること。</p> <p>工事期間中の休業日は次のとおりとする。</p> <p>(1) 工場製作の工事期間には、休日等4週8休を見込んでいる。</p> <p>(2) 現場据付の工事期間には雨天、休日等13日を見込んでいる。</p> <p>(なお、休日等は土曜日、日曜日、祝日、夏季休暇、年末年始休暇とする。)</p>															
<p>第4章 現場条件</p> <p>1. フローティングスクリーン</p>	<p>本工事の対象となるフローティングスクリーンの諸元は次のとおりである。</p> <p>フローティングスクリーン（本体）</p> <table border="1" data-bbox="459 1720 1347 1995"> <tbody> <tr> <td>型式</td> <td>鋼製フローティングバースクリーン</td> </tr> <tr> <td>製作据付会社名</td> <td>丸誠重工業（株）</td> </tr> <tr> <td>竣工年月</td> <td>昭和59年12月</td> </tr> <tr> <td>数量</td> <td>1連</td> </tr> <tr> <td>純径間</td> <td>7.840m</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>2.000m</td> </tr> <tr> <td>設計水深</td> <td>1.000m</td> </tr> </tbody> </table>	型式	鋼製フローティングバースクリーン	製作据付会社名	丸誠重工業（株）	竣工年月	昭和59年12月	数量	1連	純径間	7.840m	高さ	2.000m	設計水深	1.000m	
型式	鋼製フローティングバースクリーン															
製作据付会社名	丸誠重工業（株）															
竣工年月	昭和59年12月															
数量	1連															
純径間	7.840m															
高さ	2.000m															
設計水深	1.000m															

項 目	内 容	備考																																						
	<p>以下の部材については、更新対象とする。</p> <p>メインローラ (更新)</p> <table border="1" data-bbox="459 315 1347 551"> <tr><td>ローラ直径</td><td>D=370m/m</td></tr> <tr><td>ローラ軸径</td><td>d=55m/m</td></tr> <tr><td>ボス全巾</td><td>B=70m/m</td></tr> <tr><td>ローラ</td><td>b=60m/m</td></tr> <tr><td>踏面半径</td><td>R' =2500m/m</td></tr> <tr><td>使用材質</td><td>SCC5A</td></tr> </table> <p>サイドローラ (更新)</p> <table border="1" data-bbox="459 595 1347 792"> <tr><td>ローラ直径</td><td>D=150m/m</td></tr> <tr><td>ローラ軸径</td><td>d=45m/m</td></tr> <tr><td>ボス全巾</td><td>B=45m/m</td></tr> <tr><td>ローラ</td><td>b=35m/m</td></tr> <tr><td>使用材質</td><td>SCC5A</td></tr> </table> <p>バックローラ (更新)</p> <table border="1" data-bbox="459 837 1347 1034"> <tr><td>ローラ直径</td><td>D=120m/m</td></tr> <tr><td>ローラ軸径</td><td>d=40m/m</td></tr> <tr><td>ボス全巾</td><td>B=40m/m</td></tr> <tr><td>ローラ</td><td>b=30m/m</td></tr> <tr><td>使用材質</td><td>SCC5A</td></tr> </table> <p>スクリーン部 (更新)</p> <table border="1" data-bbox="459 1079 1347 1196"> <tr><td>バーピッチ</td><td>150mm</td></tr> <tr><td>スクリーン幅</td><td>2370mm×7840mm×2000mm</td></tr> <tr><td>バー形状</td><td>平鋼 (SS41)</td></tr> </table>	ローラ直径	D=370m/m	ローラ軸径	d=55m/m	ボス全巾	B=70m/m	ローラ	b=60m/m	踏面半径	R' =2500m/m	使用材質	SCC5A	ローラ直径	D=150m/m	ローラ軸径	d=45m/m	ボス全巾	B=45m/m	ローラ	b=35m/m	使用材質	SCC5A	ローラ直径	D=120m/m	ローラ軸径	d=40m/m	ボス全巾	B=40m/m	ローラ	b=30m/m	使用材質	SCC5A	バーピッチ	150mm	スクリーン幅	2370mm×7840mm×2000mm	バー形状	平鋼 (SS41)	
ローラ直径	D=370m/m																																							
ローラ軸径	d=55m/m																																							
ボス全巾	B=70m/m																																							
ローラ	b=60m/m																																							
踏面半径	R' =2500m/m																																							
使用材質	SCC5A																																							
ローラ直径	D=150m/m																																							
ローラ軸径	d=45m/m																																							
ボス全巾	B=45m/m																																							
ローラ	b=35m/m																																							
使用材質	SCC5A																																							
ローラ直径	D=120m/m																																							
ローラ軸径	d=40m/m																																							
ボス全巾	B=40m/m																																							
ローラ	b=30m/m																																							
使用材質	SCC5A																																							
バーピッチ	150mm																																							
スクリーン幅	2370mm×7840mm×2000mm																																							
バー形状	平鋼 (SS41)																																							
2. 山田幹線スクリーン	<p>本工事の対象となる山田幹線スクリーンの諸元は次のとおりである。</p> <p>鋼製スクリーン</p> <table border="1" data-bbox="469 1330 1347 1525"> <tr><td>高さ</td><td>4,700mm</td></tr> <tr><td>幅</td><td>3,200mm</td></tr> <tr><td>奥行き</td><td>1,000mm</td></tr> <tr><td>バーピッチ</td><td>50mm</td></tr> <tr><td>使用材質</td><td>SS (溶融亜鉛メッキ処理)</td></tr> </table>	高さ	4,700mm	幅	3,200mm	奥行き	1,000mm	バーピッチ	50mm	使用材質	SS (溶融亜鉛メッキ処理)																													
高さ	4,700mm																																							
幅	3,200mm																																							
奥行き	1,000mm																																							
バーピッチ	50mm																																							
使用材質	SS (溶融亜鉛メッキ処理)																																							
3. 関連工事等	<p>受注者は、関連業務の受注者と相互に協力し、施工すること。</p> <p>(1) ダム等基幹農業水利施設総合管理業務 (令和5年4月1日～令和8年3月31日)</p> <p>(2) 吞吐ダム他水管理設備点検整備業務 (令和6年4月1日～令和9年3月31日)</p> <p>(3) 吞吐ダム取水ゲート塗装他整備工事 (仮称) (令和6年8月～令和8年3月) (予定)</p>																																							
4. 搬入路	<p>現場への搬入路は、10ton 車の進入が可能である。</p> <p>また、工事に際し、ダム天端道路を通行止することができる。</p>																																							

項 目	内 容	備考
5. 第三者に対する措置	<p>(1) 保安対策 道路の通行止を行う場合は、交通誘導員を配置するものとする。</p> <p>(2) その他 既設構造物及び第三者に損害を与えた場合は、受注者の責任で処理するものとする。</p>	
6. その他	<p>工事は、ダムの管理に支障を来たさぬよう十分留意して行うものとする。</p>	
第5章 提出図書等		
1. 承諾図書	<p>(1) 共通仕様書第1編第1章1-1-6に示す承諾図書は、A4版の装丁とし、監督職員が指定する日までに次に示す部数(承諾後の返却分を含む)を作成し監督職員に提出するものとします。</p> <p>施工計画書 3部 承諾図書 3部 完成図書 3部 施工図 3部</p> <p>なお、完成図書及び施工図の内容、編集等については監督職員と打合せのうえ作成するものとします。また、提出書類に変更が生じた場合はその都度変更書類を提出するものとします。</p> <p>(2) 共通仕様書 第1編第1章1-1-6に示す実施仕様書・計算書及び詳細図書の提出は工事の契約日から45日以内に提出するものとします。また、承諾・不承諾は提出があった日から7日以内に文書で通知頂くものとします。</p>	
2. 施工図	<p>受注者は、施工図が第三者の有する著作権を侵害し、発注者が著作権法に従い第三者に損害の回復等の処置を講じなければならないときは、発注者に代わり、その損害を負担し、又は回復等の処置を講ずるものとします。</p>	
第6章 貸与する資料		
1. 承諾図書	<p>本工事の設計・施工において関連する次の資料は貸与する。</p> <p>(1) 資 料 名 吞吐ダム取水施設建設その2工事 完成図書 吞吐ダム取水設備フローティングスクリーン搬出工事 完成図書</p> <p>(2) 貸与期間 工事契約から工事完成まで。</p> <p>(3) 返納場所 近畿農政局 淀川水系土地改良調査管理事務所 加古川水系広域農業水利施設総合管理所</p> <p>(4) 貸与条件 貸与資料の内容については、発注者の許可なく他に公表してはならない。</p>	
第7章 仮設		
1. 工事用電力	<p>本工事で使用する電力設備及び電力料金は受注者が負担するものとする。</p>	

項 目	内 容	備考										
<p>2. 塗装除去における飛散防止対策</p> <p>第8章 工事用地等</p> <p>第9章 工事用材料</p> <p>1. 規格及び品質</p>	<p>補修塗装を実施するまでに、鉛・六価クロム・PCBの含有量試験を実施すること。試験により含有が認められた場合の飛散防止対策が必要となった場合は、契約変更の対象とする。</p> <p>発注者が確保している工事用地は、別添図面に示すとおりである。</p> <p>工事用地以外の呑吐ダム敷地内に資材等の仮置を行う場合は、事前に監督職員の承諾を受けるものとする。</p> <p>また関連工事等と供用する場合は、使用にあたっては受注者間で十分調整を行うものとする。</p> <p>(1) 主要材料は、JIS規格品、又は同等品以上とします。</p> <p>(2) 構造計算の結果、決定する使用材料は、製鉄所のミルシート又は引張試験成績書等を提出し、監督職員の承諾を受けるものとします。</p> <p>1) 主な部品の使用材料</p> <p>① 塗替塗装関係：塗料（中塗・上塗）</p> <p>鉛・クロム又はPCBを含む有害金属を含有しないこと。</p> <p>② ローラ部</p> <table border="1" data-bbox="536 1149 1278 1646"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>規 格 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>メインローラ</td> <td>鋳鋼 SCC5A φ300×85</td> </tr> <tr> <td>サイドローラ</td> <td>鋳鋼 SCC5A φ150×50</td> </tr> <tr> <td>サイドローラ</td> <td>鋳鋼 SCC5A φ35×113</td> </tr> <tr> <td>オイルスベアリング</td> <td>500SPL メインローラ φ70－φ50×70 サイドローラ φ60－φ45.5×45 バックローラ φ50－φ40.5×40</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、フローティングスクリーンの構造等を十分に把握した上で、上記工事用材料と同等以上の材料を使用する場合は、この限りではない。ただし、監督職員の承諾を得るものとする。</p>	材 料 名	規 格 等	メインローラ	鋳鋼 SCC5A φ300×85	サイドローラ	鋳鋼 SCC5A φ150×50	サイドローラ	鋳鋼 SCC5A φ35×113	オイルスベアリング	500SPL メインローラ φ70－φ50×70 サイドローラ φ60－φ45.5×45 バックローラ φ50－φ40.5×40	
材 料 名	規 格 等											
メインローラ	鋳鋼 SCC5A φ300×85											
サイドローラ	鋳鋼 SCC5A φ150×50											
サイドローラ	鋳鋼 SCC5A φ35×113											
オイルスベアリング	500SPL メインローラ φ70－φ50×70 サイドローラ φ60－φ45.5×45 バックローラ φ50－φ40.5×40											

項 目	内 容	備考																												
<p>2. 見本又は資料の提出</p> <p>第10章 施工</p> <p>1. 一般事項</p> <p>2. 施 工</p>	<p>以下に示す主要材料は、使用前に見本、カタログ及び試験成績書等を監督職員に提出して承諾を得るものとする。</p> <table border="1" data-bbox="512 360 1289 568"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>提 出 物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼 材</td> <td>試験成績書</td> </tr> <tr> <td>塗 料</td> <td>カタログ・試験成績書・色見本等</td> </tr> <tr> <td>オイルスベアリング</td> <td>カタログ、試験成績書等</td> </tr> </tbody> </table> <p>既設設備の撤去・据付の際は、他設備に損傷等を与えないように十分留意して施工するものとする。</p> <p>また、施工時は、取水塔内外に部品・工具等を落下させないように養生して行うものとする。</p> <p>(1) フローティングスクリーン整備</p> <p>1) 工事数量に記載されていない項目であっても機能確認上、必要と思われるものについてはこれを充足するものとする。</p> <p>2) 整備に要する計測機器及び工具類は受注者の負担とする。</p> <p>3) 整備において、設備（部品）の交換等が必要であると判断される場合は、その状況等について監督職員に報告するものとする。</p> <p>なお、監督職員が交換等の必要があると判断した場合は、その設備（部品）交換について契約変更協議を行う場合がある。</p> <p>(2) フローティングスクリーン補修塗装</p> <p>1) 塗装作業開始までに、鉛・クロム・PCBの含有量試験を行い、結果を監督職員へ報告すること。</p> <p>2) 塗装前に水洗いし、施設の状態を確認すること。塗装劣化箇所については、3種ケレンにより錆こぶ等の除去を行い、補修塗装を行うものとし、塗装仕様は次のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="459 1576 1355 1848"> <thead> <tr> <th>施工場所</th> <th>工程</th> <th>塗料等</th> <th>標準膜厚</th> <th>塗色</th> <th>塗装方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">現 場</td> <td>素地調整</td> <td>3種ケレン</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1層</td> <td>エポキシ樹脂系塗料</td> <td>40 μm</td> <td rowspan="2">赤系</td> <td rowspan="2">刷毛塗</td> </tr> <tr> <td>2層</td> <td>エポキシ樹脂系塗料</td> <td>40 μm</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) フローティングスクリーン据付</p> <p>1) 工事期間中取水ゲートからの取水を停止することが出来ないため、据付時期の詳細については、監督職員と協議すること。</p> <p>なお、現場据付時の水中作業については、十分に安全を確保し行うこと。</p>	材 料 名	提 出 物	鋼 材	試験成績書	塗 料	カタログ・試験成績書・色見本等	オイルスベアリング	カタログ、試験成績書等	施工場所	工程	塗料等	標準膜厚	塗色	塗装方法	現 場	素地調整	3種ケレン				1層	エポキシ樹脂系塗料	40 μm	赤系	刷毛塗	2層	エポキシ樹脂系塗料	40 μm	
材 料 名	提 出 物																													
鋼 材	試験成績書																													
塗 料	カタログ・試験成績書・色見本等																													
オイルスベアリング	カタログ、試験成績書等																													
施工場所	工程	塗料等	標準膜厚	塗色	塗装方法																									
現 場	素地調整	3種ケレン																												
	1層	エポキシ樹脂系塗料	40 μm	赤系	刷毛塗																									
	2層	エポキシ樹脂系塗料	40 μm																											

項 目	内 容	備考														
<p>3. 輸 送</p> <p>第11章 撤去</p> <p>1. 工事現場発生材</p> <p>第12章 試験及び検査</p> <p>1. 検測又は確認 (施工段階確認)</p> <p>第13章 施工管理等</p> <p>1. 主任技術者等の資格</p> <p>2. 施工管理</p>	<p>(4) 山田幹線スクリーン据付</p> <p>1) 据付には既設アンカーボルトを使用し据付けること。なお、これによりがたい場合は監督職員と協議するものとする。</p> <p>現地～工場間の輸送は、製品に損傷を与えないように十分留意するものとする。</p> <p>本工事において取替する既設部品については、別途発注者で処分を予定しているため、共通仕様書1-1-22により重量の算定を行い、発生材報告書で報告するものとする。</p> <p>なお、発生材の引渡については完成検査合格時とし、それまでの間の管理については、受注者において行うものとする。</p> <p>(1) 本工事の施工段階確認は、下表に示すとおりとします。ただし、確認時期・頻度については、監督職員の指示によります。</p> <p>1) 施設機械等工事</p> <table border="1" data-bbox="459 1104 1307 1597"> <thead> <tr> <th data-bbox="459 1104 587 1193">工 種</th> <th colspan="2" data-bbox="587 1104 967 1193">確 認 内 容</th> <th data-bbox="967 1104 1098 1193">確認時期</th> <th data-bbox="1098 1104 1211 1193">遠隔確認対象</th> <th data-bbox="1211 1104 1307 1193">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="459 1193 587 1417" rowspan="2">河川・水路用水門設備</td> <td data-bbox="587 1193 683 1417">出来形確認</td> <td data-bbox="683 1193 967 1417">施設機械工事等施工管理基準第2編第1章第1節1.「直接測定による出来形管理」による。</td> <td data-bbox="967 1193 1098 1417" rowspan="2">現場据付前段階</td> <td data-bbox="1098 1193 1211 1417" rowspan="2"></td> <td data-bbox="1211 1193 1307 1417" rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="587 1417 683 1597">品質確認</td> <td data-bbox="683 1417 967 1597">施設機械工事等施工管理基準第2編第1章第2節「品質管理」による。</td> </tr> </tbody> </table> <p>主任技術者等の資格は、入札公告の要件による。</p> <p>施工管理は、農林水産省農村振興局制定「施設機械工事等施工管理基準」及び共通仕様書（施）による。</p> <p>なお、これらに定められていない事項については、受注者の基準によるが、この場合はあらかじめ監督職員の承諾を得るものとする。</p>	工 種	確 認 内 容		確認時期	遠隔確認対象	備考	河川・水路用水門設備	出来形確認	施設機械工事等施工管理基準第2編第1章第1節1.「直接測定による出来形管理」による。	現場据付前段階			品質確認	施設機械工事等施工管理基準第2編第1章第2節「品質管理」による。	
工 種	確 認 内 容		確認時期	遠隔確認対象	備考											
河川・水路用水門設備	出来形確認	施設機械工事等施工管理基準第2編第1章第1節1.「直接測定による出来形管理」による。	現場据付前段階													
	品質確認	施設機械工事等施工管理基準第2編第1章第2節「品質管理」による。														

項 目	内 容	備考
第14章 条件変更の補足説明	<p>本工事の施工に当たり、自然的又は人為的な施工条件が設計図書と異なる場合、あるいは設計図書に示されていない場合の施工条件の変更に関する主な事項は、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 設計諸元等条件変更に係るもの 2) 関連工事との調整に係るもの 3) 不可抗力によるもの 4) 法・基準の改正に係るもの 5) その他本仕様書に定めのないもの 	
第15章 公共事業関係調査に対する協力	<p>受注者は、本工事が公共事業関係調査の対象となった場合、協力しなければならない。</p>	
第16章 その他 1. 電子納品 2. 週休2日による施工	<p>工事完成図書を共通仕様書（施）第1章1-1-26及び第1章1-1-28に基づき作成し、次のものを提出しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事完成図書の電子媒体（CD-R、DVD-R 又はBD-R） 正副2部 ・工事完成図書の出力2部（電子媒体の出力、市販のファイル綴じで可） <p>(1) 本工事は、週休2日に取り組むことを前提として、労務費、機械経費（賃料）、共通仮設費（率分）、現場管理費（率分）を補正した試行対象工事である。受注者は、契約後、週休2日による施工を行わなければならない。なお、受注者の責によらない現場条件・気象条件等により週休2日相当の確保が難しいことが想定される場合には監督職員と協議するものとする</p> <p>(2) 「週休2日」とは、対象期間を通じた現場閉所の日数が、4週8休以上となることをいい、対象期間内の現場閉所日数の割合が28.5%（8日/28日）以上の水準に達する状態をいう。なお、ここでいう対象期間、現場閉所等の具体的な内容は次のとおりである。</p> <p>① 対象期間とは、工事着手日から工事完成日までの期間をいう。なお、対象期間において、年末年始を挟む工事では年末年始休暇分として12月29日から1月3日までの6日間、8月を挟む工事では夏季休暇分として土日以外の3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間、余裕期間※注のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など）は含まない。</p> <p>（注）余裕期間については、余裕期間設定工事の場合に記載する。</p> <p>② 現場閉所とは、現場事務所等での事務作業を含め、1日を通して現場作業が行われない状態をいう。ただし、現場安全点検や巡視作業等、現場管理上必要な作業を行うことは可とする。</p>	

項 目	内 容	備考												
3 1日未満で完了する作業の積算	<p>③ 降雨、降雪等に降雨、降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。</p> <p>(3) 週休2日（4週8休以上）の実施の確認方法は、次によるものとする。</p> <p>① 受注者は、契約後、週休2日の実施計画書を作成し監督職員へ提出する。</p> <p>② 受注者は、週休2日の実施状況を定期的に監督職員へ報告する。なお、週休2日の実施状況の報告については、現場閉所実績が記載された日報、工程表や休日等の作業連絡記録、安全教育・訓練等の記録資料等により行うものとする。</p> <p>③ 監督職員は、上記受注者からの報告により週休2日の実施状況を確認するものとし、必要に応じて受注者からの聞き取り等を行う。</p> <p>④ 監督職員は、受注者から定期的な報告がない場合や、実施状況が確認できない場合などがあれば、受注者から上記②の記録資料等の提示を求め確認を行うものとする。</p> <p>⑤ 報告の時期は、受注者と監督職員が協議して定める。</p> <p>(4) 監督職員が週休2日の実施状況について、必要に応じて聞き取り等の確認を行う場合には、受注者は協力するものとする。</p> <p>(5) 発注者は、現場閉所を確認した場合は、現場閉所状況に応じた以下に示す補正係数により、労務費、機械経費（賃料）、共通仮設費（率分）及び現場管理費（率分）を補正する。</p> <p>1) 補正係数</p> <table border="1" data-bbox="549 1104 1155 1375"> <tr> <td></td> <td>4週8休以上</td> </tr> <tr> <td>現場閉所率</td> <td>28.5%(8日/28日)以上</td> </tr> <tr> <td>労務費</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td>機械経費(賃料)</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td>共通仮設費(率分)</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td>現場管理費(率分)</td> <td>1.05</td> </tr> </table> <p>2) 補正方法</p> <p>当初積算において4週8休以上の達成を前提とした補正係数を各経費に乗じている。なお、発注者は工事完成時に現場閉所の達成状況を確認後、4週8休に満たない場合は、工事請負契約書第25条の規定に基づき請負代金額のうち、それぞれの経費につき上記①に示す補正係数による補正を行わずに減額変更する。</p> <p>また、提出された工程表が週休2日の取得を前提としていないなど、明らかに受注者側に週休2日に取り組む姿勢が見られなかった場合については、契約違反として「近畿農政局工事成績等評定実施要領」（以下「工事成績要領」という。）別紙8（事業（務）所長用）に示す「7.法令遵守等」において、点数10点を減ずるものとする。</p> <p>1) 本工事における1日未満で完了する作業の積算（以下「1日未満積算基準」という。）は、変更積算のみに適用する。</p> <p>本項目に関する積算基準は、</p>		4週8休以上	現場閉所率	28.5%(8日/28日)以上	労務費	1.02	機械経費(賃料)	1.02	共通仮設費(率分)	1.02	現場管理費(率分)	1.05	
	4週8休以上													
現場閉所率	28.5%(8日/28日)以上													
労務費	1.02													
機械経費(賃料)	1.02													
共通仮設費(率分)	1.02													
現場管理費(率分)	1.05													

項 目	内 容	備考
第 17 章 定めなき事項	<p>URL: https://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/attach/pdf/index-116.pdfを参照。</p> <p>2) 受注者は、施工パッケージ型積算基準と乖離があった場合に、1日未満積算基準の適用について、協議の発議を行うことができる。</p> <p>3) 同一作業員の作業が他職種等の作業と組合せて1日作業となる場合には、1日未満積算基準は適用しない。</p> <p>4) 受注者は、協議に当たって、1日未満積算基準に該当することを示す書面、その他協議に必要となる根拠資料（見積書、契約書、請求書等）により、施工パッケージ型積算基準との乖離が確認できない場合には、1日未満積算基準は適用しない。</p> <p>5) 災害復旧工事等で人工精算する場合や、「時間的制約を受ける工事の積算方法」を適用して積算する場合等、1日未満積算基準以外の方法によるものが適当と判断される場合には、1日未満積算基準を適用しない。</p> <p>(1) 契約書、設計図面及び本仕様書に示されていない事項であっても構造、機能上又は製作据付上当然必要と認められる軽微な事項については受注者の負担で処理するものとする。</p> <p>(2) この仕様書に定めない事項又は、この工事の施工にあたり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督職員と協議するものとする。</p>	